

区分：報告

内容：2022年度外国につながる子どもの学習支援ボランティア研修会を開催しました。

開催報告

2022年度外国につながる子どもの学習支援ボランティア研修会 ～地域で共に子どもを支え、よりそうための支援を考えよう 2022～

<概要>

●目標：

- ・ 学習支援教室の活動を振り返り、子どもによりそった支援のための工夫・アイデアを共有する。
- ・ 子どもにとってよりよい環境を作るための具体的な実践事例や多様な支援者・支援機関等との連携事例から学ぶ。学習支援教室のボランティア活動を振り返り、子どもによりそって支援するための工夫やアイデアを共有する。
- ・ 支援者同士のつながり作り。

●日時：2022年12月14日（水）、12月22日（木） 9：30-12:00 全2回

●場所：第1回 オンライン開催（Zoom 使用）
第2回 パシフィコ横浜 横浜国際協力センター6階 共用会議室

●対象：横浜市内及びその近郊で外国につながる子どもの学習支援をしている方

●講師他：

第1回：講師：各務真弓さん（岐阜県可児市 NPO 法人可児市国際交流協会 事務局長）
事例発表者：善本安子さん（同 きぼう教室 小学生クラス 教室コーディネーター）
尾関理恵子さん（同 放課後きぼう教室 教室コーディネーター）

第2回：講師：白濱小恵子さん
（横浜吉田中学校/日本語支援拠点施設「ひまわり」日本語支援アドバイザー）

●参加者：第1回 27名、第2回24名（延べ51名）



今年度は、ディスカッションの時間を十分とるために、1回の講座の時間を30分増やし、1回につき2時間半にし、全2回で行いました。

第1回をオンライン、第2回を対面で行うことで、それぞれの良さを生かした研修を目指しました。新型コロナ拡大により、オンライン開催が続いていましたが、3年ぶりに対面でも開催することができました。

第1回研修会 「地域で共に子どもを支えるための支援 ～岐阜県可児市の事例から～」

各務真弓さん（岐阜県可児市 可児市国際交流協会 事務局長）

第1回は、岐阜県可児市で外国につながる子どもへの切れ目のない支援を実践している可児市国際交流協会の事務局長、各務真弓さんに講師をお願いしました。可児市国際交流協会で行う学習支援教室の教室コーディネーターである善本安子さんと尾関理恵子さんのお二人にも事例発表をしていただき、具体的な支援の内容や教室の様子等を知ることができました。

*講師のお話

外国人の子どもの日本語や学習支援の変遷

- 居場所づくり
 - 不就学・不登校の子どものために
 - ブラジル人学校の子どもの放課後支援
- 子どもの日本語
 - ブラジル人学校での日本語支援
 - 就学前の子どもへの支援
- 補習教室
 - 学校をやめないために
 - 高校進学支援

可児市の状況や、可児市国際交流協会における外国につながる子どもの日本語や学習支援の変遷から、切れ目のない子ども支援体制等を紹介していただきました。様々な背景を持つ子どもの支援の課題や、支援のためのネットワークづくりなど、参考になるお話をお聞きました。

*事例発表

これまでの経緯

- 5年ほど前までは午後1時～4時までの1クラスのみ。
- 遠学練習、計算練習に特化して指導していたが、学校の評価につながりやすかった。
- 現に行っているのが概ね強く聞き取り。

教室コーディネーターのお二人からは、ご担当の教室の概要、学習支援の内容、課題や課題への対処方法など、具体的にお話しいただき、日々子どもに向き合う受講者にとって、いろいろなヒントをいただきました。

*グループワーク

5つのグループに分かれて、可児市のお話を聞いた感想と、各参加者が行っている学習支援で困っていることを話し合い、全体で共有しました。困っていることについては、「地域に学習支援教室を広げたいが場所がない。」、「オンラインでの支援には支援者の研修が必要」、「ボランティア不足による新たな子どもの受け入れの難しさ」など、よりよい支援のための課題が出されました。最後に講師、教室コーディネーターの方からは、可児市の取り組みを改めて振り返る機会になったことや、可児市と横浜市で共通点があること、お互いに学び合えることなどコメントをいただきました。今後もぜひつながり、情報交換させていただきたいと願います。

第2回研修会 「学校と地域で共に子どもを支えるための支援 ～横浜市の事例から～」

講師：白濱小恵子さん（横浜吉田中学校/日本語支援拠点施設「ひまわり」
日本語支援アドバイザー）

第2回は、私たちが活動する横浜市の外国につながる児童生徒の現状や支援体制、学校で行う日本語指導等について、横浜吉田中学校の教員で日本語支援アドバイザーの白濱小恵子先生にお話を伺いました。後半では、学校と地域が連携してどのような支援ができるかを、グループでディスカッションしました。

*講師のお話



最初に、横浜市の外国につながる児童生徒への支援体制や日本語支援アドバイザーについての説明があり、日本語支援拠点施設「ひまわり」などで講師が行っている授業実践や事例紹介を通して、外国につながる児童生徒の現状についてお話いただきました。

「ひまわり」初日の全く日本語がわからない子どもにどのように教えるか、授業に集中できない子どもにどのように対応するかなど、具体的で参考になるお話をたくさん聞かせていただきました。

*グループディスカッション



後半のグループディスカッションでは、これまでに成果を感じた活動（工夫やアイデア等）について、グループで紹介し合いました。各グループの話した内容を書いた紙を貼り出し、グループごとに発表して共有しました。

その子のやる気を引き出せるものを見つける、外国ルーツの方を支援者にする、子ども中心でイベントを企画する、オンラインの活用、学校との連携等、様々な工夫やアイデアを共有することができました。

参加者の声（各回のアンケートより一部抜粋）

- 他の自治体の取り組みを聞くことで、こちらでやりたくてもできなかったことが、実はできる可能性があるかと、カづけられました。
- 学習支援とともに、居場所の提供や、もやもやの解消の手助けとしての存在が大切だと、勇気づけられました。（以上第1回）
- みなさんと対面で会え、情報共有できた。
- ひまわりの指導内容など気づかされるが多かった。先生の体験・経験されたことに基づくお話は大変わかりやすく今後活用していきたいと思います。（以上第2回）